

「地域や人々を幸せにする方法（ビジネスプラン）を提案する」

金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高等学校

岡 かなえ

## 1. はじめに

本校は2014年から5年間SGH指定校、2019年から3年間WWLコンソーシアム構築支援事業拠点校に採択された「地球サイズの教育」を目標に掲げる学校である。この実践事例は2017年度に取り組んだ内容である。本校の1年次の「総合的な学習の時間」では「地域課題研究」を行っており、「地域や人々を幸せにする方法を提案する」活動に取り組んだ。この授業では、グローバル社会とつながる地域課題について主体的に認識を深めることを目的にしており、その学習活動のなかでRESASを、地域的特性や表層文化を知るためのツールとして活用した。

## 2. 「地域課題研究」の授業の流れ

### (1) 地域調査

加賀市を中心に金沢市より南の石川県を対象に、その基層文化や地域的特性を調べ、課題を発見する。(★RESASの活用)



### (2) 先行事例調査

研究対象に定めた地域の表層文化や地域特性を理解したうえで、地域課題への取り組み例(先行事例)を調査し、提案内容を考える。



### (3) 研究機関・企業との連携

現在または将来における地域を認識し、金沢大学・北陸財務局・地元企業・自治体の協力を得ながら、地域理解を深める。



### (4) 実社会への提案

地域の抱える課題を解決するビジネスプランを、企業や自治体・研究機関などに提案する。



## 3. 授業を通して身に付けたい力（評価指標）

### (1) 課題発見力

地域の特色や課題及び振興策の先行事例を十分に調査・理解し、それらの内容を踏まえて課題を設定し

ている。さらにその課題の着眼点が斬新である。

### (2) 課題解決力

「課題内容」から「提案」へと論理的に展開されており、提案の根拠も明確で、非常に説得力があり、現実的である。さらにその提案が斬新なものであり、実社会に発信できる提案となっている。

### (3) 表現力

声の大きさや話すスピードが適切で、話の展開もわかりやすく、発表内容がオーディエンスに非常によく伝わる。また、発表をサポートする工夫が見られる。

### (4) 協働性

班のメンバーで同じ目標に向けて役割分担をし、それぞれが役割を十分に果たし、効率よく活動できる。

## 4. 研究テーマ例

1	「過疎地域を照らすライトアップ「ナイトエコノミー」～温泉からもう一步外へ～」(地方創生☆政策アイデアコンテスト地方予選通過)
2	「ストーンビジネスで小松に潤いを！」(ビジネスプラン・グランプリベスト100入賞)
3	「酒峰コマツ～白山が恵む地酒で小松市を豊かに！」(ビジネスプラン・グランプリベスト100入賞)
4	「川北“愛”検定～川北町と子供のつながりを深め若者増加の社会を持続的なものに～」(川北町の小学校で、川北“愛”検定実施)

## 5. 取材先・連携機関

加賀市役所・小松市役所・白山市役所・山代温泉観光協会・片山津温泉観光協会・川北町教育委員会・日本政策金融公庫・金沢大学 等 60ヶ所以上

## 6. 成果と課題

成果としては、調査する際に「地方創生☆政策アイデアコンテスト」でも指定されているRESASを活用したことで、生徒たちは目的に応じてデータを活用し、プレゼンでもデータを提示するなど、説得力のある提案ができるようになったことが挙げられる。

課題としては、提案発表の場に多くの企業等が足を運んでくださるものの、ほとんどの提案が提案で終わり、実現しないということである。実現したものとしては、授業から1年半後の2019年に企業(米心石川)・行政(金沢市市民協働推進課)・地域団体(金沢まちづくり学生会議)と連携して、商品開発まで行ったものが挙げられる。